



“花の百名山”の中で、「カッコソウはこの山にしかない」と説明されているらしい。ただの草花じゃあないか！と言ったら怒られるであろう。サクラソウ科の花であり、絶滅が心配されているそうである。鳴神山は桐生市に位置していて、982mの里山とはいえ登山道は良く整備されていて、いわゆる里山の持つ荒っぽさはない。そのためか平日とはいえ桐生市民かなと思える登山客も見かけた。「鳴神山」の腕章をまいた管理者みたいな人にも出会った。本当によく整備された気持ちのいい山である。それに加えて、前回の物語山と同様に新緑が目に心地良い。



この日の家を出がけに聞いた天気予報のおじさんが、“今日は一円晴れです”と言っていた。一円晴れとは、これ以上崩しようがないという予報官どうしの隠語であると言っていた。まあ実際には多少の雲はあったが、前日の雨で清められたのかとにかく良い天気であった。富士山まで見えたし360度妨げるものない展望であった。

スリヤピークと一緒にあった茨木Aさんもこのツアーに参加していた。あの時子供たちにプレゼントしたクレパスと思ったものは本当は色鉛筆で、彼女が贈ったものであるといっ

ていた。スリヤピークから帰った後も、笈ヶ岳（おいずる）をはじめとして週2回以上のペースで登っているみたいだ。

カッコソウの他にヤマブキソウや白いイワカガミなどがあり、これらもしっかりとロープでガイドされていた。だから保っていられるのであろう。

この日のツアーリーダーはおっかない顔が特徴の桜井さんと、この道はシンマイの宮代さんであった。



白いイワカガミ